週刊 愛知民報
2022年 12月4日 第2612号
発行所 日本共産党愛知県委員会
〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番25号
☎(052) 261-3461（代表）
(052) 251-2925（編集部） ＦＡＸ(052) 261-6063
定価 月 400円 郵送料336円 1部 100円
毎週日曜日発行（第5日曜日は休刊）

知事選焦点

市町村を応援 住民に身近な県政に

子ども医療費助成制度大きく前進

（「2022年愛知自治体キャラバン陳情項目と資料」、「愛知社保協ニュース」10月25日号より）

【入院・通院とも18歳年度末まで無料】

※太字は入院医療費も同時に18歳年度末まで拡大。

実施済み＝北名古屋市、東郷町、豊山町、蟹江町、飛島村、南知多町。実施済みだが中学卒業後は償還払い＝設楽町、東栄町、豊根村。

2022年1月＝名古屋市。2022年4月＝東海市、岩倉市、愛西市、弥富市、犬山市。2022年9月＝小牧市、**扶桑町**。2022年10月＝**江南市**、尾張旭市、津島市。2023年1月＝蒲郡市、幸田町。2023年4月＝春日井市、稲沢市、大口町。

【入院のみ18歳年度末まで無料】

実施済み＝日進市。実施済みだが中学卒業後は償還払い＝豊橋市、岡崎市、豊川市、刈谷市、安城市、新城市、知立市、田原市、清須市、みよし市、長久手市（来年1月所得制限撤廃）。

2022年4月＝碧南市、西尾市、知多市。2022年10月＝豊明市、あま市。2023年4月＝武豊町（中学卒業後は償還払い）。

【入院を24歳年度末まで無料（18歳年度末以降は学生に限る。中学卒業後は償還払い）】

春日井市、豊田市、東海市

【18歳年度末まで助成、一部負担あり】

半田市、大府市（通院は中学生以上1割負担。入院は18歳年度末まで無料。ともに市外医療機関は償還払い）。

革新県政の会（日本共産党も参加）が愛知県知事選挙（1月19日告示・2月5日投開票）に向けて発表した「基本政策」の柱に「市町村の応援」があります。子ども医療費無料化を例に具体的に見ます。

愛知県内では54のすべての市町村で、子ども医療費無料制度を実施しています。医療機関の窓口で保険証とともに市町村が発行した「医療証」を提示すれば、3割の窓口負担分が補助される仕組み。窓口無料（現物支給）が増えていますが、市町村役場に申請して金融機関の口座に払い戻す「償還払い」も残っています。

愛知県が市町村におこなっている補助は、通院が小学校入学前、入院が中学校卒業まで。愛知県内では54のすべての市町村で県基準に上乗せする独自助成を実施しています。

すべての自治体を訪問し福祉拡充を要望する「2022愛知自治体キャラバン」の調べによると、通院・入院ともに18歳年度末まで無料化の自治体が25にまで増えています（**詳細左表**）。愛知県が市町村への医療費助成制度を18歳年度末まで拡大すれば、全市町村が無料化年齢を引き上げることができます。

知事選での県政転換と4月の県議選での共産党議席の獲得は、地域住民にとって身近な県政を実現する力になります。

子ども医療費助成 県の補助基準

通院	入院
小学校入学前まで	中学校卒業まで

共産党、革新県政の会の要求

「18歳年度末まで」

共産党県議「いる」と「いない」で大ちがい

わしの恵子、しもおく奈歩両前県議　宣伝・支持拡大・党勢拡大に全力

日本共産党の、わしの恵子、しもおく奈歩の両前県議は、来年の県議選で必ず議席を回復しようと宣伝、支持拡大、党勢拡大、「折り入って作戦」と「集い」をすすめています。

わしの氏は、11月26日に開いた集いで、「2019年の県議選で共産党が議席を失って県議会のチェック機能が失われました」と強調。共産党県議がいた時に請願件数は92件あったのが、いなくなったら11件に激減。請願が採決されない「陳情」扱いになっていることを告発しました。

在職時に本会議で取り上げた、県立高校・特別支援学校の老朽化対策について、「5年間で131校、316棟、2076カ所でトイレの洋式化、床の乾式化が実現した」と報告。また、初当選した2015年の県議選で取り上げた「県営住宅老朽化」について、「2012年度に34億円を割り込んでいた修繕費が今年度55億円まで増額されています」と述べ、支援を呼びかけました。

しもおく奈歩前県議は26日、豊橋駅前でシールアンケートに取り組み、「物価高騰の影響を感じる」など若者の声を聞きました。

街頭でシールアンケートに取り組む、しもおく奈歩前県議＝11月26日、豊橋市

県議選勝利へ決意を語る、わしの恵子前県議＝11月26日、名古屋市